

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1851号 2006年11月06日(月)

《 strong figure brings back dollar 》

アメリカ経済への見方が大きく右左に揺れる状況は先週も続きました。木曜日までは「米経済は弱い」との印象をふりまく統計が多かった。米第三・四半期のGDP成長率1.6%発表(予想を大幅に下回る)の後を追うように、コンファランスボードの消費者信頼感指数やIMS製造業景況指数など。いずれも予想を大きく下回った。この二つの統計が出た先週半ばまでの段階では「米景気に対する悲観論」が高まっていた。これが、先週一週間ニューヨークの株価が小幅ながら下げ続ける背景となった。ドルは軟調で、ドル・円相場は116円台の後半があった。

しかし状況は週末3日発表の雇用統計で一変する。発表前後の為替相場の動きをたまたま見ていたら、雇用統計発表から時間を置かずにドル相場は大きく反発に転じた。ドル・円相場は発表前の116円台から短時間の間に急騰、118円台に乗った。先週のニューヨークの引値も118円台。為替市場のドル高に加えて、債券市場では債券が大きく売られて、指標10年債に利回りは木曜日段階の4.60%前後から、一気に4.72%前後まで上昇した。

いつものことながら、雇用統計は10月分も予想外なものでした。非農業部門の就業者数で12万5000の予想の時に、実際に発表になった10月の同雇用者数は9万2000人。これだけだと「米経済は弱い」と読める。金曜日の夜最初にケイタイ電話の速報でこの数字を見た時には筆者もそう感じた。しかしその後、8、9月の就業者数が合計13万9000人も上方修正されたのに加えて、10月の失業率が4.4%に低下したことを知って、外国為替市場でのドル高の動きが納得できたという次第。最近の雇用統計は、当該月の非農業部門就業者数よりも、前月、前々月のリバイスで相場が動くケースが多い。

4.4%というアメリカの失業率は、2001年5月以来の低い水準であり、中間選挙を控えた米共和党にはケリー前大統領候補のイラク関連発言、フセイン元イラク大統領に対する死刑判決とともに、格好の民主党に対する反撃材料となった。米中間選挙についてはあとで書く。

先週のドル・円相場の動きで確認されたことは、116円台のドル・円は強い買い場になっている、ということです。これは前号のニュースで書いた通りです。先週相場が116円台に留まった時間はそれほど長くなかった。ドルは上値も徐々に見えてきているので再び直ぐに強く上昇基調に乗ると言うことはないが、当面一番安定できる水準は117円

台ということになりそうである。

ただし筆者は、「FRBは年内は5.25%のFF金利水準を維持するだろう」という見方を10月の雇用統計が直ちに変わるとは思っていない。10月の雇用創出は依然として10万を割っており、力強さに欠ける。「住宅市場の景況悪化に伴う雇用の減少を、サービス産業の雇用増で補っている」という現状。

この週末の米エコノミストの見方を一応見たが、目立ったのは結構「失業率はまた上昇する」との見方が多かった点。住宅産業の苦境は続くし、これからは米自動車業界でも雇用削減の動きが顕在化するとの見方があった。ウォール・ストリート・ジャーナルには「来年初めには米失業率は5.0%に逆戻り」との見方もあった。筆者はここまでの雇用情勢の悪化を見ない。失業率が上昇したとしても、4%台の後半ではないか。自動車を含めて、各業界のリストラもかなり進展している。

もっとも、こうした中ではFEDは米金利据え置きの見通しを変える必要はないだろう。それもあってか、ドル相場の対ユーロの動きを見ると、ユーロに年内再利上げの思惑がある分だけ、10月雇用統計発表後のドルのユーロに対する戻しは少なかった。その分だけユーロが強かったことになるが、実際のところユーロ・円のレートはそれまでの150円を割った状態から、ニューヨーク時間の引けにはしっかりと150円台に乗った。

《 mid-term election in the U.S. 》

今週はアメリカで次の大統領選挙を展望する上でも参考になる中間選挙が行われる。7日火曜日で、今回の選挙の注目点は

1. 全体的に選挙戦を有利に進めている民主党が、現在議会をも制している共和党の議席をどの程度減らす事が出来るのか
2. その過程の中で、予想通り下院の多数派奪回と、もしかしたら上院での過半数獲得が可能か
3. ブッシュ政権の被る打撃がどの程度大きくなり、同政権が避けがたくレームダック化の中で、これからのアメリカの政治の色彩がどの程度変わるのか
4. そして、あと2年後の米大統領レースの展開がどう繰り広げられ、両党から誰が抜け出るかの展望が開けるのか

などでしょう。選挙戦終盤の形成は「民主党がかなり有利で、少なくとも下院の過半数は握れそう」という状況です。最終盤に来て、「ケリー候補の不用意な発言」「フセイン元大統領に対する死刑判決」など多少ブッシュ大統領にとっての反撃材料は出てきたが、10月は1ヶ月で100人を越えたイラクにおけるアメリカ兵の死が大きくマスコミでも取り上げられる中で、アメリカの選挙民の間には急速に「ブッシュ嫌い」が増加している。米軍のイラクでの今年に入ってからの死者の数は、優に1000人を越えている。これも

あって、最近の各種世論調査ではブッシュ大統領の支持率は、30%台に落ち込んでいる。

問題はこの「ブッシュ嫌い」がどの程度「共和党嫌悪」につながっているのだが、共和党がブッシュ大統領のイラク戦略を一番強く支持していたことは間違いなく、選挙民の間ではこの両者はかなり強くリンクされているようである。その分だけ上院、下院の共和党候補は不利な闘いを強いられていると言われる。伝統的な共和党支持者の間でも、「今回はブッシュに、そして共和党にノー」という人が多い。

最終盤の状況では、「民主党が下院を制するのはほぼ間違いない。問題は上院を制することが出来るのか」に移っている。下院は全議席が改選になるので、民主党の支配権ひっくり返しはかなり濃厚と言われる。対して、上院（議員数は100）は毎回三分の一の改選であり、つまり改選数は少ない。

今回の選挙では、民主党は下院では15、上院では6の議席を新たに獲得すると、両院で支配権を握れる。そうなれば、ブッシュの政局運営は難しくなる。アメリカは憲法で大統領にことさら大きな権限を認めてはいるが、中間選挙での共和党敗北は、直近の民意がブッシュ大統領にノーを突き付けたことになるのだから、政局への影響は避けがたい。

中間選挙と市場との関係を展望しておく、一番重要なファクターは「市場は米共和党の負けをかなり織り込んでいる」ということだ。共和党には支持者の離反を招くような不祥事が最近多かった。いちいちここでは指摘しないが、性的、金銭的スキャンダルが相次いで、イラクでの戦局不利に加えて、共和党の人気低落の背景となっている。何よりもイラク開戦でブッシュ大統領を支持した一般有権者の中には、「大量破壊兵器も、核兵器も、そしてアルカイダとのつながりも発見されなかった。ブッシュ政権にはウソをつかれた」との気持ちが強いと言われる。共和党への不信が強いということだ。しかし、これはよく知られている。

したがって、共和党がかなり大きな負け被らない限り、選挙結果を「予想の範囲内」と理解するだろう。直ちに市場への影響はなく、関心は2008年の大統領選挙に向かうことになる。共和党が頑張って予想外の健闘を見せたときも同じ展開だ。問題は共和党が大負けして、両院の多数派を失うばかりでなく、党やブッシュ大統領への国民の不信感がぬぐえないものになった場合だ。その場合には、少なくともドルに対しては良い影響は出ない。多少のドル安が予想される。

しかし今のドルのレベルは、政治状況だけで決められているわけではなく、政治状況はむしろ付け足しの要因である。基本は米経済の先行きに対する相対的楽観論と、国としてのアメリカの安定性、それに加えて高い金利水準にある。これらの要因は変わらない。よって筆者は、共和党がかなり酷く負けた場合においてドルが売り圧力を浴びることは考えられるが、それが長続きするとは思っていない。

《 WHO IS THE NEXT ? 》

市場の関心も世界や米国内の興味も、中間選挙後は「次の大統領は誰か」に移るだろう。

憲法で米大統領は3選を禁じられている。どちらにしても、ブッシュは今季限りである。任期切れが接近した大統領は、うまくいっているときでもレームダック化する。中間選挙で予想外の負けを喫すれば、ブッシュ大統領のレームダック化は一段と進むことになる。

今現在で「次のアメリカ大統領選挙に立候補の可能性あり」と見られている人物を政党別に挙げると以下の通りである。

【共和党】

マケイン上院議員
アレン上院議員
フリスト上院議員
ヘーゲル上院議員
ハンター下院議員
パタキ・ニューヨーク州知事
ロムニー・マサチューセッツ州知事
ジュリアーニ・前ニューヨーク市長

【民主党】

ヒラリー・クリントン上院議員
オバマ上院議員
ケリー上院議員
ドッド上院議員
ゴア前副大統領
ビルサック・アイオワ州知事
リチャードソン・ニューメキシコ州知事
エドワーズ前上院議員

過去の例を見ればやはり「上院議員」か「州知事」の経験者が大統領への近道であり、2008年の選挙候補もそうした人が多い。その中では、共和党のジュリアーニ・前ニューヨーク市長が異色だ。上院議員も、州知事も経験がないからだ。その分だけ不利かも知れない。しかし、その分だけ異色だとも言える。

今のところ共和党に「本命」「対抗」と言った色分けが出来る人はいない。民主党ではヒラリーとオバマの二人が抜けている。しかし、アメリカの政治は直前まで分からない。筆者もこの二人を含めて次期大統領候補に関しては、今後の検討材料だと考えている。

今週の主な予定は以下の通り。

11月6日(月)

米シカゴ連銀総裁講演

11月7日(火)	米クリーブランド連銀総裁講演 米サンフランシスコ連銀総裁講演 福井日銀総裁講演 米中間選挙
11月8日(水)	9月景気動向指数(速報) みずほ FG、NYSE 上場 英中銀金融政策決定委員会(～9日) 米MBA住宅ローン申請指数 米シカゴ連銀総裁講演
11月9日(木)	10月景気ウォッチャー調査 10月工作機械受注 米9月貿易収支 米11月ミシガン大学消費者信頼感指数 米9月卸売在庫 ECB、金融政策の役割に関するセミナー開催
11月10日(金)	9月機械受注・10～12月見通し 米債券・為替市場休場(ベテランズ・デー) トリシェ ECB 総裁とバーナンキ米FRB議長が 講演(フランクフルト)

《 have a nice week 》

3連休はいかがでしたか。「秋の好天」に恵まれて、暖かったし、外に出た人が多かったのではないのでしょうか。日曜日の午後から夜にかけての全国の道路はかなり混んだようです。私も千葉県で歩行訓練をしたり、日曜日には一番若い従兄弟の、かなり引っ張った結婚式に出たり。40才を目前にして、11才も若い女性と結婚した。

ところで家の風呂の調子がちょっと悪いこともあって、この週末は久しぶりに近くの銭湯に。以前は結構好きで夏の夕暮れなどに行ったものですが、最近はめったに行かなかった。久しぶりに行ったら、面白かったな。

入浴料は430円でした。以前の銭湯は奥から湯船があって、その前に洗い場があって、引き戸のこちら側は着替えの場でしたが、今回行った銭湯はマイクロななんとかという湯船、普通の湯船、それにサウナがあった。結構充実している。

いろんな人がいました。入れ墨がびっしり入った人、芸術家風の人、学生と思われる連中。風呂場の番台のオバさんと話したら、午後10時近くからが混むのだそうです。たしかにその境目に行ったのです、時間の経過とともに混んできた。ちょっと居ただけですが、外国人と見て直ぐに分かる人はいなかった。

笑ったのは、着替え場はロッカーになっているのですが、上の一段のロッカーには人名

が貼り付けてある。あれは「メンバーロッカー」でしょうか。だとしたら、メンバーフィーを払っている？ 一応必要となるものを置いておけるので、便利ですが。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》